

<学校経営計画「本年度の取組」> ～大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成～(キーワード:「信頼」「温もり」「笑顔」)
 1「疑問をもち、考え抜く力」の育成 2「思いやりのある心と行動力」の育成 3「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成 4「連携による学校力」の向上

項目	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校運営協議会委員からのコメント	評価
確かな学力	「疑問をもち、考え抜く力」の育成	① 社会状況等を幅広く視野に入れた教育活動の展開を通して、生徒が学校と社会とのつながりに気付き、主体的に学びの質を高め(深め)、自らの人生を切り拓いていくための基礎・基本となる力を身に付けさせる。 ② 各教科及び道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事における話し合い活動や体験的な学習など、創造的・協働的な学びを充実させ、他者とともに課題に取り組む力を身に付けさせる。 ③ これまでの教育実践とICTのベストミックスを図り、個別最適な学びを推進する。情報を活用しながら課題を発見する力、解決の方法を決定する力、よりよい解決を実現する表現力を身に付けさせる。	2	①教員自己評価で91.0%が話し合いや教え合い活動を取り入れ、生徒主体の授業を進められた。また、「先生の話や説明はわかりやすい」について、生徒肯定的評価は91.2%となった。 ②他者対話や協働しつつ問題解決の中で、新たな価値や考えを発見・創造することにつながった。後期学校評価項目「生徒同士で話し合ったり、教えあったりする雰囲気がある」の生徒肯定的評価は84.7%となった。 ③教員自己評価で50.0%がタブレット端末を授業であまり活用していないと回答していた。	①②生徒主体の授業づくりを推進し、実践していくため、校内研修を充実させ、話し合いや教え合いの質を高め、深い学びへとつなげていく。また、各教科等で体験的な学習や外部人材を活用した授業を行う中で、新たな価値や考えを構築させていく。 ③単元・題材計画の中に、活用できる場面を設け、計画的に活用を図っていく方策を構築する。	生徒主体の授業づくりや話し合い・教え合いのある学習環境が整っており、生徒が安心して学び合っている点は高く評価できる。数値上は厳しい評価となっているが、教員自身がより高次の学びを求めて内省している姿勢の表れとも受け取れる。ICT活用については課題として挙げられているものの、生徒の主体性や体験的な学びを重視した授業構想がなされている点を評価したい。	2
豊かな心	「思いやりのある心と行動力」の育成	① 他者も自分も大切にすることができる人権感覚と規範意識を育て、いじめや暴力を許さない心豊かな生徒、多様な人々がともに生きる社会の実現に寄与する生徒の育成を図る。 ②「自己存在感の感受」「共感的な人間関係」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を教育活動全体において実践し、生徒一人一人の自己指導能力の育成を図る。 ③ 道徳科の授業を軸に心の教育を充実させる。人権・生命尊重の理念や道徳的価値についての理解を深めさせ、他者への共感を持つとともに、よりよい自己の実現を目指す力の育成を図る。	3	①いじめに関しては、学校全体で組織的に対応できた。「いじめや暴力のない学校にするよう意識していますか」について、生徒肯定的評価は87.0%、保護者は79.0%となった。また、「様々な場面で、思いやりのある行動ができていますか」について、生徒肯定的評価は88.0%、保護者は79.0%となった。 ②教員自己評価で、「自己存在感の感受」は82.0%、「共感的な人間関係」は91.0%、「自己決定の場の提供」は91.0%、「安全・安心な風土の醸成」は100%となった。 ③「道徳の授業は自分自身の心の成長に役立っていますか」について生徒肯定的評価は81.0%となった。全学年でのローテーション道徳や、考え、議論することで実践できるような資質・能力を育むことができていると感じる。	①②来年度から2年間東京都より人権尊重推進校の指定を受け、「誰もが輝ける社会を目指して」を主題に、自他を尊重し人権を守ろうとする意識や態度等の人権感覚を育てていく。また、未然防止の観点での指導の充実と、学校・家庭と連携した取組を推進し、安全で安心な学校づくりを行っていく。 ③教員後期学校評価の肯定的評価は73.0%であった。ローテーション道徳で書く教員の得意分野等を生かしながら、より深く考えさせる発問の仕方等を工夫していくとともに、教員自身が道徳についての理解を深めるため、東京都や他の外部団体が行っている研修についての参加を推進していく。	人権尊重を基盤とした教育活動が、自己存在感や共感的人間関係の育成につながっており、安心・安全な学校風土が醸成されていることを実感する。数値では捉えきれない生徒一人一人の学びや成長を丁寧に見取ろうとする姿勢が重要であり、教員評価と生徒評価の差を今後の授業改善や研究活動に生かしていくことを期待したい。来年度の人権尊重推進校としての取組にも大きな期待が寄せられる。	3.0
健やかな体	「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成	① 特別活動の特質や役割を意識して生徒を主語とした取組を推進し、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、意見や立場の違いを理解する力や折り合いをつけながら物事を前に進める力を育む。 ② 地域社会や関係諸機関、近隣の幼稚園・保育園、小学校、高等学校、大学、専門学校等との連携を推進する。各種体験やボランティア活動等への参加を推進し、社会の一員としての自覚を深める生徒の育成を図る。 ③ 個に応じた指導を推進する。関係機関と連携し、不登校対応や特別支援教育など、きめ細やかな指導を通して、自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越えることができる生徒の育成を図る。	3	①行事や係・委員会活動への取り組みの肯定的評価は93.5%となった。生徒を主とした各種取り組みを教員がカタチにできるように支援したことが要因だと考える。 ②生徒肯定的評価で「自ら進んで挨拶していますか」87.0%、「清掃にまじめに取り組んでいますか」は94.0%、「人の話を聞く態度ができていますか」は87.0%、「積極的にボランティア活動に取り組んでいると思いますか」は76.0%であった。 ③「学校はあなたの悩みや相談に適切に応じてくれていますか」は生徒肯定的評価は74.0%、保護者は91.0%、「学校や学級に毎日行くのが楽しみですか」は生と肯定的評価は74.0%、保護者84.0%であった。	①生徒が主体的に学校の環境や生活を、自分たちの手で創っているという思いをもてるように、今後も生徒の様々な提案(思い)をカタチにしていく。 ②挨拶については、教員の肯定的評価は86.0%となっている。昨年度は55.6%だったので教員自身の率先垂範と生徒へ挨拶を行うことの意味を伝えていたのが成果となって表れているが、一部生徒は自ら挨拶する習慣がまだ定着していないので、引き続き挨拶運動を推進していく。 ③保護者と生徒の実態に乖離があり、学校に行くのが楽しみではない生徒が26.0%いることから、一人ひとりを大切にするために、東京都の施策である居場所づくりと絆づくりをより一層充実させていく。	行事や生徒活動、ボランティア活動を通して、生徒が主体的に役割を担い成長している姿が見られる。挨拶や基本的な生活習慣の定着にも成果が表れている。一方で、「学校に行くのが楽しみではない」と感じている生徒が一定数いることを組織的課題として捉え、居場所づくりや個に応じた支援をさらに充実させていく必要がある。	3
学校力	「連携による学校力」の向上	① カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、社会と共有する教育課程を目指す。教育活動全体を通して、新たな価値を生み出す豊かな創造性や問題発見・解決能力など、教科等横断的な資質・能力の育成を図る。 ② すべての教育活動は、生徒の安全・安心を第一とした計画に基づくものとする。感染症対策や熱中症予防対策等、様々な状況に柔軟に対応することができる教育課程を編成する。 ③ コミュニティ・スクールの良さを生かし、学校運営協議会を軸に地域連携・防災学習を推進する。 ④ 特別支援教室拠点校として校内委員会の機能を充実させ、自立に向けた学びと育ちを支援する。	3	①4つの視点(発見すること、決定すること、対話すること、表現すること)の共通した表示、手話体験や小・中連携の日、五中カフェ、五地区サミット等で、交流を図りながら連携を推進した。また、昨年度から生徒会主催の小中での地域清掃を継続して実施した。 ②熱中症対策としてプールへのミストの設置やのぼり旗による熱中症警戒アラートの見える化等を行い熱中症対策を推進したり、地域連携支援としてのボランティア活動及び学習支援を行ったりした。 ③府中市防災危機管理課と連携した防災学習を実施し、生徒の防災意識を高めることができた。 ④特別支援教室での個に応じた指導やサポートルームの環境整備を行った。昨年度から継続して利用している生徒同士が仲良くなり、コミュニケーションをよくとるようになった。この取り組みにより生徒の居場所づくりが定着し、絆づくりに寄与したと考える。	①教育課程全体を見直し、教育活動全体を通して各教科等横断的な育成を図っていく。 ②熱中症対策については一定の成果が出ているのでこの取り組みを継続しつつ、来年度は感染症対策に力を入れ、インフルエンザ等のまん延防止処置について教員間で共通理解を図っていく。 ③防災時に学びを生かせるように日頃から地域との関わり等を増やしていく。また、来年度は人権尊重推進校として「災害に伴う人権問題」も挙げ、地域連携・地域防災を強化していく。 ④サポートルームについては、卒業後の先につながるようにしていく方策も検討していく。	地域や関係機関との連携が有機的に機能しており、学校運営協議会を軸とした取組から学校力の高さが感じられる。防災学習や特別支援、居場所づくりの取組は生徒の安心感につながっている。今後は教育課程全体を見直し、教科横断的な資質・能力の育成や「災害と人権」など時代的課題を踏まえた実践の深化に期待したい。	3.0
					学校運営や今後の学校運営委員会について、ご意見等がありましたらお願いいたします。	・定期的に先生方の体調管理(メンタル含め)が少し心配です。 ・先日の委員会で校長先生がお話しされてましたが、他学年が交流できる取り組みをととも楽しみにしています。今後とも宜しくお願いいたします。	